



# 緑のカーテンの育て方マニュアル



緑のカーテンとは、日の当たる窓をつる性の植物で覆った、自然のカーテンのことです。強い日差しをさえぎることで室温の上昇をおさえ、省エネ効果を得ることができると言われています。つる植物は、ゴーヤやアサガオの他、ツルムラサキ、ひょうたん、風船かずら、へちま、ひるがお、ゆうがお等があります。花が咲いたり、実がついたりすると、見た目を楽しめたり、収穫した実を料理に使ったりなどできると、楽しみが増すことでしょう。

ここではゴーヤの育て方を紹介します。アサガオやへちまなどの植物にも応用することができます。



## 用意するもの

- ・種または苗 ・プランター（深いものの方がよい）
- ・培養土（花や野菜用のもの、赤玉土や腐葉土などから作っても可）
- ・ネット（あみ目の大きさは10cm程度） ・支柱 ・紐 ・肥料 など



## 種をまく前の準備

ゴーヤ種は硬いので、種の先のとがった部分をはさみやペンチなどで切り、一晩水につけておきます。ただし、市販の種によっては、処理済のものもありますので、種の袋に記載されている説明を確認してください。



## 種まき

培養土と肥料はあらかじめ、混ぜ合わせておきます。

プランターに植える場合は、水はけをよくするため、プランターの底に小石を敷きます。

その上に、プランターの8割から9割程度、肥料を混ぜ合わせた土を空気を入れるようにふんわりと入れます。

土の上に等間隔に種をまきます。（ポットにまく場合は、1ポットにつき3粒を等間隔に置く。）種から根が出ているものは根を下にします。

種の上にふんわりと1cmほど土をかぶせ、水をあたえます。



## 苗ができるまで

芽が出て、本葉が1～2枚になったら間引きをし、10 cmほど離します。（ポットに植えた場合は、1ポットにつき1本にする。）本葉が3～4枚になったら苗の完成です。

根も呼吸をしています。あまり水をあげすぎても腐ってしまいます。苗が小さいうちは、「土の表面が乾いてきたら」をめやすに水を与えましょう。



## 苗の植え付け（苗から育てる方、ポットで苗を育てた方）

プランターに土を入れるところまでは「種まき」で紹介したとおりです。プランター1つにつき、2株を40～50 cmの間隔をあけて植えます。最後に、苗と土をなじませる程度に水を与えましょう。



## ネットの設置

つるが伸びる前にネットを設置します。

ネットはなるべくたるまないようにピンと張ると、つるが絡みやすくなります。支柱を利用して、ネットを固定するとしっかり張ることができます。



## つるの這わせ方

本葉が4～5枚になったら、一番先端の成長点（枝の先）を摘みとります。そうすると、その横からわき芽が出てきます。このわき芽を伸ばしていきます。その後は、枝が茂りすぎた時に、適度に摘んで隙間を作るようににします。



## 栄養の与え方

成長してきて、葉の色が薄くなってきたら、追加の肥料を手のひらの半分量ほど与えてください。（追肥）水は朝夕たっぷり与えてください。



## 実のつけ方

雌花が咲いたら、朝のうちに雄花のおしべを雌花のめしべにつけて、受粉させます。15～20日ほどで実が大きくなります。黄色くなる前に収穫して食べます。



## 種の収穫

実が固くなり、熟して黄色くなった後、実が開きます。種子の周りについている果肉を洗うなどして取り除き、しっかり乾燥させて保存します。



## 後片付け

つるは、ネットからはがし、可燃ごみで捨ててください。

ネット、プランター、支柱などは、また次の年に利用してください。

土は、改良材を入れるなどして再利用できます。（根など、土に混ざっている余分なものは取り除きます。）



## 栽培カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
種まき		←→					
苗の植え付け ネット張り			←→				
開花				←→→→			
種の収穫						←→→→	

【問合せ先】 島本町役場 環境課  
 電話 075-962-2863  
 F A X 075-961-6298